

加藤登紀子さんが東川PRイベントで合唱指導

歌手の加藤登紀子さん(73)が町民や日本語留学生をコーラス合唱に加えて、東川町PRソングを作りました。曲名は「東川Song」

「ここは地球のどまん中」。加藤登紀子さんの作詞、作曲で、7月11日来町し、文化芸術交流センターの旧東小体育館ホールで町民合唱のレコーディングをしました。

「ここは地球のどまん中 夢が生きる東川」と歌い出す歌は、大雪山と田園風景が広がり、おいしいお米と実り豊かな大地の魅力を歌っています。集まったのは、町立日本語学校、旭川福祉専門学校で日本語を学んでいる台湾、ベトナムなどからの留学生、両校のスタッフ、町国際交流員6人、東川中学校吹奏楽部の生徒約20人、町民コーラスグループ・みずほコーラスのメンバー15人ら総勢約70人。「もっと強く」「もっと元気に」などと指導を受けて徐々に息がそろうようになり、力強い合唱に。最後は「やったー！」と達成感に包まれました。



この日録音した合唱は、東京で先行録音を終えている加藤さんの歌に重ねて完成の予定。代表曲の一曲「百万本のバラ」を含めて6曲入りCD(カラオケ曲入り)に収め、町立日本語学校などで学ぶ海外留学生の募集時にも覚えやすく親しみやすい東川の歌として国内外でPRに利用します。

CD完成後の今年10月7日(予定)には町内で加藤登紀子コンサートを開いてお披露目の予定です。

中国人殉難烈士慰霊祭

7月7日、中国人強制連行事件殉難烈士慰霊碑管理委員会(代表委員・外山弘美東和土地改良区理事長)が東14号共同墓地で中国人強制連行事件殉難烈士慰霊祭を行いました。

東和土地改良区、東川町、旭川市、旭川日中友好協会、旭川華僑協会、旭川大学生など関係者約60人が出席しました。

全道から6チーム、喜寿軟式野球大会

7月6、7の両日、ゆめ公園球場、町民球場の2会場で開催された全道喜寿軟式野球交流大会が開かれました。

北海道選抜軟式野球連盟(畑誠一会長)主催、旭川・深川いづべやズ(庄内孝治会長)が主管しました。

75歳以上の喜寿メンバーで作る道内の軟式野球6チームが集まりました。最高齢は札幌から参加した85歳。103人中、31人が80歳以上、道内実業団の名門・旧拓銀野球部、道北随一の強豪、旧旭鉄局野球部(国鉄旭川鉄道管理局)の選手だった人も。

法政大学出身で実業団・旧拓銀野球部の名選手だったという畑誠一さん(75)が今年から入会資格を得て出場すると、第一打席からさっそく適時打を放ち、華麗なジャンピングスローの内野守備を見せて大活躍。

決勝戦は、畑さんが所属するオール札幌、滝川名球会シニアーズ、還暦&古希札幌野球クラブの混成チーム対地元東川のメンバーが加わった旭川、深



川いづべやズの対決となり、札幌・滝川混成チームが優勝しました。(18日、各種大会成績参照)

選抜軟式野球連盟に所属する道内チームは、現在31チーム。70歳以上の古希チームは11チーム、喜寿チームは6チーム。大会は道内の喜寿チームが勢ぞろいし、交流会で旧交を温めて来年の再会を誓い合っていました。

平和の誓い、町民慰霊祭

7月1日、町社会福祉協議会(桑原良一会長)は平和と開拓の碑前で東川町慰霊追悼式を開きました。

遺族会、社会福祉団体、町内の自治振興会代表など各界から約120人が出席し、開拓のくわを入れた先人の労苦をしのびました。松岡市郎町長は「462柱の先人の知恵と魂を受け、123年の歴史を築いてきた。先人を

中体連全道大会に出場ラッシュ

東川中学校(尾崎朋子校長)の卓球部女子、女子バスケ部、剣道部の3運動部と陸上、水泳、体操各競技の5人合わせて総勢41人が中体連全道大会(北海道中学校体育大会)に各競技で上川地区代表として出場することになり、7月19日、出場各部の生徒代表と顧問の先生が松岡市郎町長らに必勝を誓いました。卓球部女子(佐々木妃菜部長)は9人、女子バスケ部(二瓶凛花部長)は13人、剣道部(男子新田岳広、女子畑中結衣両部長)は14人、個人種目では水泳(400m、200



自由形)の丸一叶人君(SAシナ)11年、陸上(100m)の三浦弓奈さん12年、同(800m)の草野迅君(野球部)11年、体操の平田萌永さん(旭川TAG)11年、同中谷花野さん(同)12年。これほど多くの種目で中体連全道大会に出場するのは、開校以来初の快挙。松岡町長は「経験を積み、一層たくましくなってもらいたい」と激励しました。

7月下旬から8月上旬にかけて各競技大会に出場します。

外山代表委員は、先の第二次世界大戦(太平洋戦争)を引き起こした日中の不幸な戦争の歴史を振り返りました。

「かんがい用農業用水池建設のために強制連行で338人が働かされ、連行途中で死者34人、到着後3カ月間で41人など88人が殉難した。そのほか負傷者48人、病人221



人の犠牲によって完成し、地域経済の発展に貢献しています。日本と中国が再び戦争することなく、日中友好を深めていかなければならない」と追悼しました。

日中戦争(第二次世界大戦)の発端になった1937(昭和12)年7月7日の盧溝橋事件に合わせて毎年行っています。

日本語留学生が吟剣詩舞に挑戦

町内で日本語を学ぶ日本語学校の留学生が日本の伝統芸道の一つ、吟剣詩舞に挑戦しています。

フ・ベツジ(巫逸慈)さん(25)、チョウ・セイカ(張静華)さん(42)ら台湾人の7人とマレーシア人のメアリー・コー・チャ・イングさん(30)。「宝塚が大好きで3回も見に来ました。今年4月に札幌公演にも行ってきました」(メアリーさん)という熱心な宝塚ファンも。

昨年10月に町立日本語学校の1年半



コースに入学した留学生の皆さん。日本の文化を習いたい」と、漢詩や和歌の吟詠にのせて剣舞、詩舞を舞う吟剣詩舞を習い始めました。

講師は聖月流指導師範の丸山妙月さん(74)。「本名・妙、東神楽町。富士山、漢詩「大楠公」習っているのは詩吟「富

しのび、足跡に思いを馳せ、21世紀の限りない発展に全力を尽くすことを誓います」と追悼し献花しました。

開拓の碑は、1894(明治27)年に開拓の鍬が入って以来町の発展を担ってきた開拓功労者249柱、戦没者21



3柱合わせて462柱を慰霊しており、毎年慰霊祭を行っています。

慰霊祭に先立って幼児センター、町内4小学校、東川中学校、東川高校から7チームの園児、児童生徒約230人が中心市街地をマーチング行進、第一小の児童は道草館前で恒例の一小太鼓を披露しました。